

看護いばらき



公益社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association

No.99
2012年12月20日



実習指導者講習会 閉講式

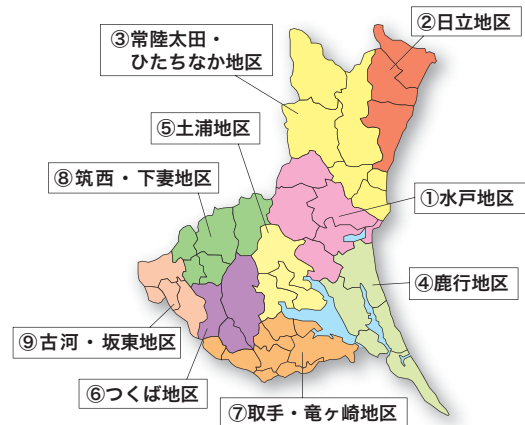
CONTENTS

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ◆平成24年度地区意見交換会開催…………… P 2 ～ 3 | ◆輝け！ナースマン…………… P 8 ～ 9 |
| ◆平成24年度実習指導者講習会報告…………… P 4 ～ 5 | ◆そよかぜ 私の専門～認定看護師～…………… P10 |
| ◆資格認定教育研修 糖尿病重症化予防(フットケア)研修会… P 6 | ◆私の職場…………… P11 |
| ◆ザ・シリーズ～地域連携～…………… P 7 | ◆協会からのお知らせ…………… P 12 |

平成24年度

地区意見交換会 開催

公益法人移行後初の意見交換会が、県内5会場にて開催されました。



取手・竜ヶ崎地区

平成24年9月27日(木) 龍ヶ崎済生会病院総合健診センター3階済生会ホール



取手・竜ヶ崎地区理事 本間 満子

地区編成後初めての「意見交換会」が開催され、地区会員のみなさま40名が参加してくださいました。看護協会から「公益社団法人への移行について」「事業推進に関する事項」等について説明があり、公益社団法人として看護協会の活動の方向性が理解できたのではないかと感じました。意見交換の場では2施設から現状と問題を報告していただき、

それぞれの施設が人員確保や柔軟な勤務体制の導入から起因する諸問題を抱えており、看護協会長はじめ担当理事からは要望についての対応や各施設の抱える問題について助言をいただきました。参加の皆さまから直接ご意見をいただく時間が少なく残念でしたが、情報を共有する機会をいただき、参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



筑西・下妻地区、古河・坂東地区

平成24年9月25日(火) 下館地域交流センターアルテリオ

筑西・下妻地区理事 野口 敬子

今年度から、筑西古河地区から保健医療圏ごとに区分けされ2つの地区として活動することになりました。地区開催は5回目となりますが、両地区合同で1回目となります意見交換会が、約40名近くの会員参加の中行われました。会長はじめ役員の方々から協会の事業について説明がありました。初めて参加した人たちからは、常日頃看護協会の方々とはあまりお話を聞かせて頂く機会はないので、いろいろな取り組みに対しとてもよい評価をいただきました。

また、意見交換会では 毎年かなり要望の多い研修についてですが、募集人員の拡大や、場所の選定などできるかぎり取り組んでいただけるとの協会からのご返答がありました。

今後も地区意見交換会になるべく多くの人に参加できるよう、そして実りある意見交換をするためにも地区の小さな意見にも耳を傾け、協会との一体感を感じて頂けるような交換会を目指し活動したいと考えています。



鹿行地区

平成 24 年 10 月 2 日 (火) 鹿嶋市まちづくり市民センター

鹿行地区理事 岡 直子

会場となった「市民センター」は会場は貸して頂けるのですが、それ以外に必要な備品、中のレイアウトは委員が人海戦術で行い、協会の役員さんも演台を動かしたりの協同作業から始まりました。

施設会員35名の参加。協会主催で開始されました。

鈴木副会長挨拶に続き、事務局長より公益社団法人移行について説明があり、公益認定を頂くまでには、大変なご苦労があった事と思いました。

また、事業報告として、教育研修、職能委員会報告、ナースセンター長より鹿行地区の現状等について説明があり、研修センターは改修によりアメニティが整い素敵になりました。意見交換会も事前に打ち合わせしていたので、比較的スムーズに進みました。永遠の課題である、看護師不足の対策としてワークショップ、格差、規模別の情報交換、研修会等の助言がありました。今後、介護・福祉関係との連携強化も含め、頑張っていきたいと思います。



水戸地区、日立地区、常陸太田・ひたちなか地区

平成 24 年 10 月 16 日 (火) 茨城県看護研修センター 研修室

常陸太田・ひたちなか地区理事 鈴木 典子



平成24年度、水戸、日立、常陸太田・ひたちなか地区意見交換会が開催された。参加者は水戸地区22名、日立地区15名、常陸太田・ひたちなか地区9名、各地区理事3名の計49名。意見としては研修に関することが多くを占めた。年々研修内容も充実しており、参加者からの評価も高い分、希望者が多く、参加枠を増やしてほしい、回数を多くしてほしいとのことであった。さらに、2025年問題や

医療の現状等に関する情報を地域住民へ知らせることも必要ではないかとの意見があり、公益法人となったことを意識する声も聞かれた。事前に頂いた各施設の現状では、産休・育休者や短時間勤務者の増加に伴う看護師不足が課題として上がっていた。限られた時間の中で活発な意見交換ができたことは意義深いことであった。もう少し時間があると、より有意義な情報交換・意見交換会となったと思う。



土浦地区、つくば地区

平成 24 年 10 月 18 日 (木) 土浦訪問看護ステーション研修室

つくば地区理事 白川 洋子



さる10月18日、土浦訪問看護ステーション研修室にて、平成24年度土浦・つくば地区意見交換会が開催されました。

意見交換会に先立ち茨城県看護協会から公益社団法人への移行について、事業推進に関する事項の説明がありました。特に超高齢社会に備えて「複合型サービス」事業の展開や、ワークライフバランスの推進・ワークショップ事業について説明がありました。

また、平成22年からスタートした新人臨床研修制度が新卒者の離職率の低下につながったのではないかと報告がありました。引き続き地区意見交換会が行われ、出席者は両地区40名で、訪問看護ステーションや、看護専門学校の教員、個人会員の方々が出席されました。

事前に集約した各施設の現状・問題点、要望等が配布資料で共有化されました。両地区共通の問題として看護師不足があり、特に訪問看護ステーションでの人員確保が困難であり、研修を受ける余裕がない状況であることから、病院と地域の人材交流により教育をはかっていくアイデアが出された。一方メンタルケアの必要な学生や職員が増えていることが挙げられフォローの必要性が報告されました。

また、研修センター改修により研修環境がよくなったこと、受講料の振込が可能になり利便性がよくなったこと等の声が聞かれた。その反面研修センターから遠い地区では活用しにくい状況や、研修日程によっては調整しづらいことがあるため検討してほしいとの要望がありました。

地区意見交換会を通じた印象として、役員や理事から直接事業報告を聞くことは会員としての意識が高まり、会員の意見やニーズを把握する良い機会となりました。今後の工夫として、事前に集約した地区からの質問や意見に対して協会からの返答が予めあれば、より時間を有効に使うことができたのではないかと思います。

平成24年度

実習指導者講習会報告

研修日：前期 平成24年 6月20日(水)～7月20日(金)
 後期 平成24年 8月21日(火)～9月14日(金)
 会 場：茨城県看護研修センター 研修室
 受講者：101名（看護師98名、助産師3名）



受講者の声

- ・色々な人の考えを知ることができ実習指導に対する考え方が深まった。
- ・まだ学生を受け入れていないので、みんなの声を直接聞け心の準備ができて良かった。
- ・得るものがたくさんあり、自分が成長でき発表につなげることができ達成感があった。
- ・これからも学生を指導するに当たり、自信がついた。

前期・後期の約2か月間（240時間）という長期にわたり、実習受け入れ施設より実習指導者としての知識・技術を修得するため101名の受講生が参加し、グループワークで実習指導案を作成し9月13日14日の2日間で発表会が行われました。

発表会では各施設から多くの職員も出席され、受講生の発表を興味深く聞かれていました。

広報委員会では、受講生に講習会に参加しての感想についてアンケート調査・取材をしました。今後参加を検討している方々の参考にしていただければと思います。



受講者の声

- ・最初は毎日の講義に通うのも苦痛であったが、演習をとおして講義の重要性、その一つ一つのつながりが理解でき、充実感でいっぱい。
- ・他のグループの発表も興味・関心を持って聞くことができた。
- ・辛いこともあったが今は達成感で心地よい。
- ・次回フォローアップでみんながどう学生と関わっているのが、会うのが楽しみ。



発表会の様子

出席者の声

「各グループ発表に工夫がされていて、聞いている側も楽しめました。」
「発想豊かなプレゼンテーションで(音楽・映像のコラボ)感動し涙しました。」



発表会には各施設多くの職員の出席がありました。

受講者アンケート

～受講の動機～

- ・上司にすすめられて
- ・スキルアップのため自分から希望して
- ・知識向上のため
- ・いままでの指導の仕方に自信がなく指導方法を学びたくて
- ・今の学生の傾向を理解したくて
- ・今後学生指導に関わっていきたくて
- ・学生とのコミュニケーションがうまくとれず指導方法を学びたくて

～学んだこと～

- ・現代の青年期の特徴、対応の仕方など指導するうえで把握することができた
- ・臨床実習は授業である。そこでの指導者の関わり方を学んだ
- ・学生の特徴を考えた指導の在り方、学ばせ方などを知り、指導者としての心構えや、効果的な指導方法を学んだ
- ・学生のレディネス、社会背景を考慮した指導が必要であり、意図的に介入、発問することで、学生の考える力を伸ばせることを学んだ
- ・教育学、指導法、指導案作成方法について学んだ

～感想～

- ・とても大変だったが、自分の看護観について見直す機会となった
- ・いろいろな施設の方々、年代の方々と交流がもて、情報交換ができよかった
- ・指導方法について学べ、参加してとてもよかった
- ・学生の気持ちが少しでも理解できよかった
- ・心から楽しめ、講義はもう一度受けたいくらい興味深かった

～目指す指導者は～

- ・看護師モデルとなる
- ・学生の立場のなって考えられる
- ・学生の良いところを導きだせる
- ・学生の看護観が深められる
- ・看護師の仕事はやりがいのある仕事であることを伝えられる
- ・学生の思いを大切に充実感のある実習ができる

閉講式の様子



研修お疲れ様でした。
今回の研修で多くの出会いがありましたね(*^_^*)
そのつながりを大切に!
研修の学びを実践につなげていきましょう

取材 広報委員
宮本・高橋・菊池

資格認定教育研修

糖尿病重症化予防(フットケア)研修会

研修日：平成24年10月5日(金)～7日(日)
会 場：茨城県看護研修センター研修室
受講者：43名



内容

診療報酬加算対象の研修として、糖尿病重症化予防(フットケア)研修が開催されました。研修のねらいは糖尿病患者へのフットケアの意義を理解し評価方法と実践の技術を習得することです。

加算要件には18時間以上の日程であることが規定され、3日間のプログラムで、日本糖尿病学会認定専門医と10名の糖尿病看護認定看護師により実践されました。フットケアの技術だけを取り上げるのではなく、病状や足病変の状態をアセスメントし、セルフケアも含めて患者に適した方法とケアを継続していくための支援をするということでした。

18時間の研修を受講し、評価方法と実践の技術を身につけることで、糖尿病合併症管理料算定ができるために必要な修了証が授与されます。

今回、広報委員では10月6日(土)に行われた研修を取材しました。

フットケアには、循環器内科、血管外科、腎臓内科、糖尿病専門医、形成外科、皮膚科、リハビリテーション、靴・装具技師、管理栄養士、WOC、感染管理認定看護師、糖尿病看護認定看護師など多くの専門分野・職種が関わります。全てがそろった病院はなく、地域の連携で治療が行われているのが現状です。糖尿病足病変は生命が脅かされると同時に、足切断による生活への支障からQOLの低下にもつながるため発生を予防するケアが重要とすることで、受講生も糖尿病患者に関わることの多い専門外来、病棟、クリニックなどからの参加者で、活発な意見交換がされていました。

取材 広報委員 高橋・菊地・松村



- ・合併症のある患者に接する時の知識、技術の取得を目的に参加した。
- ・糖尿病療養指導士の資格を取得し、トータルケアの一環として興味をもち、どのようにしたら予防できるのかを理解し、ケアに活かしていきたいと思い参加した。
- ・アセスメント、計画、実施の意義がよく理解できた。
- ・管理料算定にあたり、学び得たことが多かった。





住み慣れた地域での療養生活を継続するために

医療法人社団青燈会 介護老人保健施設 ライブリーライフ「那珂」野澤 真由美

ライブリーライフ「那珂」は、平成8年9月に開設した介護老人保健施設です。100名の入所サービスと30名の通所リハビリテーションを運営しております。

“在宅復帰支援施設”としての役割を果たすため、リハビリスタッフだけでなく看介護のケアスタッフも協働で、生活リハビリに取り組んでおります。また、毎日の食事はもちろんですが、料理研究家をお迎えして利用者と一緒に作って味わう「料理教室」や「イベント食」、施設内でレストランを開いて利用者をお迎えするなど、食事サービスに力を入れています。



病院併設型であるため、いざという時にスムーズに医療機関に搬送できるという点で、安心してご利用いただけます。また、居宅介護支援・訪問看護・訪問介護等各事業所も併設しておりますので、在宅復帰後もしっかりサポートいたします。

“ライブリーライフ”＝“生き生きとした生活”を送っていただく事を目標に、看護師13名・介護士40名・リハスタッフ7名・介護支援専門員2名・支援相談員2名他総勢73名のスタッフで、生活と介護とリハビリをセットで提供いたします。

輝けナースマン

人との出会いを大切に

霞ヶ浦医療センター 馬籠 和明

高校時代に交通事故で入院した時「自分も看護師になりたい」と思い、看護の道に進み20年がたちました。今では、4人の子の父親として毎日育児にも奮闘しております。育児はなかなかうまくいきませんが、子供の笑顔が私の癒しになっています。

看護師として働きだした頃は、人の命に係わることの重責に押し潰されそうになったり、やる気満々で実際に仕事してみると知識・技術の抜けが多く注意されがっかりしたり、ケアの時など男の人は嫌と断られ、やる気をなくし看護師には向いていないのかな？などと考え、現実の厳しさに何度も辞めようと思ったりもしました。

そんな私が今も看護師としていられるのは、時に優しく、時に厳しくあきらめずに温かく指導してくれた諸先輩方や同僚、そして頼りにしてくれる患者様のおかげだと思っています。

現在は内科・循環器病棟で勤務しており、学ぶことが多く日々勉強の毎日ですが、今年、臨床指導者講習会に参加する機会を得ました。今までも学生の指導に関わってきましたが、これからは、講習会での知識を基に学生の背景・特徴を踏まえた教育をしていきたいと思います。

これからも一期一会を大切にしながら、患者様に寄り添った質の高い看護を目指し、勇往邁進していきたいと考えています。



心に寄り添う看護を目指して

結城病院 関口 尋紀

昨年、念願の看護師になる事が出来ました。急性期病棟に就職し、新人で分からない事が多い中、忙しい毎日に追われました。そんな日々も慣れた頃には、毎日同じ事の繰り返しのように感じ、看護って何だろうと感じるようになりました。そんな時、私自身が病気になりました。痛みで仕事も出来ず、毎日病気に対して不安な思いをしていました。この体験から、患者さんの不安や辛い思いを知り、相手の立場になれる看護師になろうと思いました。その後、無事に仕事に復帰し、忙しい仕事の中でも一呼吸置いて、自身の体験を思い出して患者さんに接しています。患者さんの心に寄り添える看護師を目指して、これからも精進したいです。



笑顔が嬉しくて！

志村大宮病院 寺門 宏行

高校を卒業してから会社員として働きましたが、なかなか遣り甲斐のある仕事に巡り合うことが出来ませんでした。社会人になって数年経ったころ、知人の勧めで介護職として医療の現場で働き始めました。しかし、介護職としてでは患者様の援助をするのにも限界があり、もっと患者様の近くに寄り添いたい、もっと色々なことを援助出来たら喜んで



もらえるのに…と考えるようになり、看護の道に進むことを決めました。実際、医療の現場で働いてみると、想像以上にハードな仕事でした。私の働く職場は、高齢患者の多く、様々な障害と向き合いながらも、患者様が一生懸命感謝の言葉を伝えてくれたり、笑顔を見せてくれると仕事の辛さを忘れてしまいます。現在は、本当に遣り甲斐を感じ、誇りをもって日々精進しています。

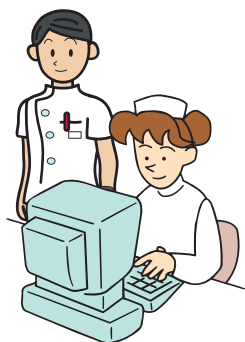


プリセプターとなって

神栖済生会病院 金生谷 真澄

私はプリセプターとして新人看護師の育成に携わっています。

新人看護師への指導では、まず自分が十分にその技術や知識を習熟していなくてはならず、新人看護師のほうが新しい看護について学んでいる為、自分も新しい看護について学ぶ必要があります。そのため、新しい看護書籍や医学書などと日々格闘しています。その中で、今まで当たり前のように行



なっていた事が実はエビデンスが低いといった事を学んだり、新人看護師の目線に立つことで、今まで見落とした業務のなかの問題点を見つけたりと、自分も成長できていると実感しています。

日々の業務に加えプリセプターとしての役割を果たしていくことは非常に忙しいことではありますが、その忙しさ以上に自分にとってプラスになっていることが多いと感じています。これからも新人看護師を通して、ともに成長していけるように努力していきたいと考えます。



そよかぜ

私の専門 ～認定看護師～

茨城県立中央病院
認知症看護認定看護師 花田 知己



認知症患者に寄り添う。看護の原点が認知症看護にはあります

もともと高齢者が大好きだった私に、看護局長の勧めがあり認知症看護認定看護師を取得しました。

徘徊、暴言、不眠、不穏…。身体拘束に対するジレンマなど認知症患者の看護において困難を感じるケースは多々見られます。どう対応したらいいのでしょうか？ 答えは

けっして1つではありません。個々の重症度や環境などによって対応方

法は様々です。皆さんに何かを訴えようとしているサインととらえ、その訴えを深く洞察する必要がある。その人らしさを最後まで引き出せるような援助をしていくことが認知症看護のや



りがいへとつながります。

今年10月からは、関東信越厚生局において第1号の精神科リエゾンチーム加算を取得しました。リエゾンチームの一員として院内における活動をますます充実していきたいと思っています。看護の原点が認知症看護にはあると思います。認定看護師を目指している皆さん、一緒に頑張りましょう。



私の職場



地域の人々とともに歩んで

茨城県厚生農業協同組合連合会 看護支援室長 江幡 恵子

茨城県厚生連は、高萩協同病院・水戸協同病院・土浦協同病院・JAとりで総合医療センター・なめがた地域総合病院・茨城西南医療センター病院、土浦協同病院附属看護専門学校を運営し、公的医療機関として救急医療・がん医療・周産期医療など、高度かつ専門的な医療を地域に密着して提供しているJA組織です。

この6病院を運営する本部が私の勤務する茨城県厚生連です。千波湖のほとり、景観の良い高台に位置し四季折々の景色を楽しみながら2名体制で仕事をしています。

仕事内容は6病院看護部の運営に関する相談支援をはじめ、全病院の教育の質を上げるため厚生連看護部クリニカルラダーの構築、全看護職員の集合教育、看護師の募集活動そして県内26JAと連携し地域の人々の健康増進・啓発活動などを行っています。

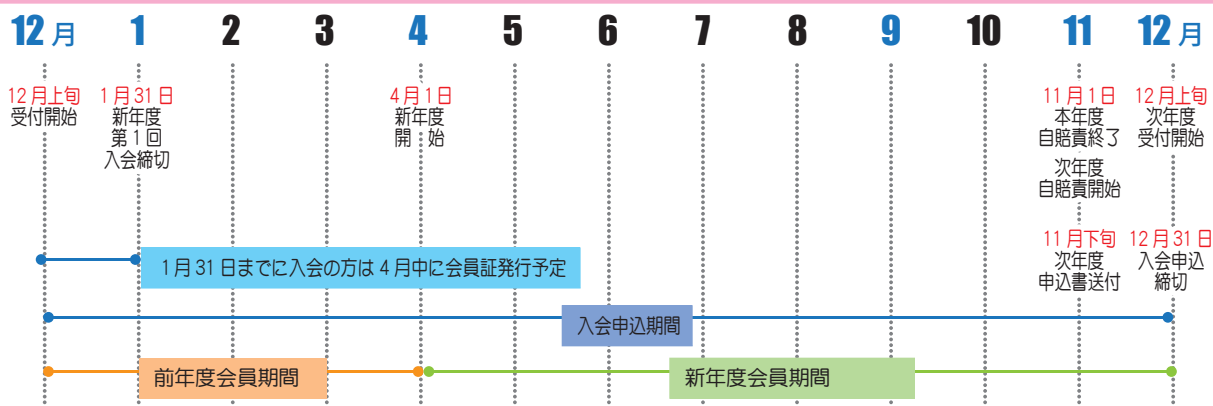
人々と触れ合い、病院で医療を提供すること以外に地域で生活する人々が求

める医療・看護に対する考え方を知ることができ、改めて地域貢献という厚生連の重要な役割を再認識しています。

茨城県厚生連は、看護職地域の人々から信頼され支援していただけるマグネットホスピタルを目指して活動しています。



平成25年度入会のご案内



会費 10,000 円（内訳：日本看護協会 5,000 円、茨城県看護協会 5,000 円）

※年度内に転居や改姓等により登録内容に変更が生じた場合には、所属の都道府県看護協会へ必ずお知らせください。

看護協会施設利用のご案内

看護研修センターは、館内をリニューアルし、利用しやすい環境設備が整いました。

会員の皆様をはじめ、地域の皆様のセミナーや講演会、健康づくり、交流の場として、ぜひご利用ください。

今回は、施設を利用して行われている「シルバーリハビリ体操教室」をご紹介します。



◆◆◆ シルバーリハビリ体操教室 ◆◆◆

* 日時 毎月第2・第4木曜日 10:00～11:00 * 会場 茨城県看護協会別館 1階



* 茨城県からのお知らせ *

いばらき出会いサポートセンター 登録会員・パーティー参加者募集!!

いばらき出会いサポートセンターでは、結婚を希望する独身男女の「パートナー探しのお手伝い」や「ふれあいパーティーの開催」などの結婚支援を行っています。

☆成婚組数（累計）892組（H24.10.31 現在。会員と非会員との成婚数を含む。）

☆登録会員：茨城県内にお住まいの方がお勤めの方（入会登録料 10,500 円 3年間有効）

☆入会手続きは、結婚を希望する本人に限ります（電話予約制）。

* パーティー日程表 *

非会員も参加可。ホームページからは更に詳細がご覧いただけます

No35	12/31(月) 22:30～24:30	カウントダウン&パッピニューイヤー (対象年齢フリー)★カップリングなし	水戸市 『シダックス水戸南町クラブ』
------	-------------------------	---	-----------------------

【お問い合わせ先・パーティーお申込み先】

いばらき出会いサポートセンター

TEL029-224-8888 (9:00～17:00〈祝日を除く。水・木は～19:00〉)

携帯サイトへは右のQRコードからGo



編集後記

今年も残り僅かとなりました。年頭の目標は、達成できましたか？

広報委員会では、紙面を通して、協会の活動をわかりやすくお伝えできるよう、また、情報交換の場として活用していただけるよう、役立つ情報をお届けできる紙面を目指してまいります。

次号は、記念すべき100号を迎えます。お楽しみに！

広報委員一同